

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間の尊厳と自立	授業の種類 （講義）	授業担当者 山本 英清	
授業の回数 15 コマ	時間数（単位数） 30 時間	配当学年・時期 1 年前期	講師の実務経験 有 ・ 無
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間理解と尊厳の意義と利用者主体 ・ 人権思想 ・ 社会福祉領域での人権・福祉理念 ・ 利用者の人権や権利侵害、権利擁護 ・ 自立とは ・ 尊厳を守る介護と自立支援 <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の尊厳と自立に関する専門用語がわかる ・ 「人間とは」を説明できる ・ 自立支援の考え方が理解できる 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 人間の尊厳と利用者主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間とは 物→動物→人→人間 ・ よりよく生きる ・ 人間の尊厳「尊厳とは」 ・ 人間の尊厳と利用者主体 国際障害分類 <p>2 人権思想の潮流とその具現化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間思想の潮流 生存権 社会権 ・ 人権思想の具現化 基本的人権 <p>3 人権や尊厳に関する日本の諸規定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国憲法第 13 条 ・ 日本国憲法第 25 条 <p>4 人権や尊厳に関する日本の諸規定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法 ・ 介護保険法、障害者総合支援法 <p>5 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エリザベス救貧法 罰することからの労働力 ・ 劣等処遇と道徳的助言 ・ 貧困の社会性の認識と社会的対応の必要性 			

- ・ケースワークの母 リッチモンド

- ・戦争が社会福祉に及ぼした影響

6 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷

- ・生存権保障とより人間らしく生きること

- ・新たな貧困問題・人権問題のなかで

7 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷

- ・ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン

- ・QOLという考え方 ADLからQOLへ

- ・生命倫理

8 人権尊重と権利擁護

- ・利用者の人権と生活

- ・利用者の権利侵害が起こる状況

- ・権利侵害の背景

- ・権利擁護の視点

9 尊厳を支える介護福祉士とは

- ・金魚

- ・ひかる君

- ・床下のものしりオババ

10 自立のあり方

- ・自立の概念の多様性

- ・いろいろな視点からみた自立

- ・画一的ではない自立

- ・ライフサイクルからみた自立

11 自立とは

- ・自立をするのはだれか

- ・見える自立と見えない自立

- ・自立と自己選択・自己決定、自律

- ・自立の基礎となる精神的自立

- ・自立とは

12 介護を必要とする人々の自立と自立支援

- ・介護を必要とする人の自立

- ・自立のために必要なこと

- ・自立支援がめざすもの

- ・自立への意欲と動悸づけ

13 介護を必要とする人々の自立と自立支援

- ・自立支援の考え方

- ・自立と依存と選択

- ・自立支援とICF

14 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自律支援の関係性

- ・尊厳を傷つけ、損なう可能性

- ・ 尊厳を損なう介護とは
- ・ 尊厳を守るための介護とは
- ・ 尊厳を守る介護の中心にある自立支援

1 5 定期試験

- ・ 尊厳と自立を介護に活かす

[使用テキスト・参考文献]

中央法規出版 人間の理解

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

定期試験 9割

レポート 1割

*評価基準は評価記入用紙による